

伝説の会社をつくる 組織を変える 企業トップ 組織を強くしたい

「社長は人が良過ぎますよ。だから駄目なんです」。頼まれたら断り切れず、最後には首が回らないところまで追い詰められる。経営コンサルタントに当たっていると、世知辛い現代でもそんな経営者に出会う。業績こそ全てだと信じるコンサルタントはすぐに「考え」を改めるようにアドバイスしてきた。しかし、「人が良い」とは悪いことなのだろうか。

コンサルこそ心の勉強を

横浜市の経営コンサルタント業「エイチ・エス・コンサルティング」の佐藤雅彦社長は9年前、少しだけ考えが揺らいでいた。そのころ取り扱う各社の経営陣から出てくる悩みは、「人間関係」「ムード」などが多くなってきていた。

内情を見ると、会社を変えようと動くリーダーに付いてくる従業員は案外少ない。「右向け右」で従順に言うことを聞いてくれるほど部下たちは単純ではない。たとえ号令に

かった。この会社もコミュニケーションが行き届いていない。指示や強制だけでは人は育たない。そしてそれは13人の従業員を抱える佐藤さん自身の社も除外できないことだと気付いた。

「信頼し合った部下を持たせることも真のコンサルだ。コミュニケーションの勉強が必要なきが必ず来る」(佐藤さん)と思っていた。そんなとき、担当する一社から企業経営者向けにコーチングを行う大阪市中央区の「ワールドユアアカデミー」を薦められた。

別々の価値観

佐藤さんは「業績向上のための正しいことをしていれば、それでいい」と思っていた。つまり数字になればわれわれの意義がある、と考えていた。しかし、コーチングを受ける中で、話を聞く姿勢や判断の仕方などが相手へどう印象を与えるのか理論的に学び、考えが変わった。

分はいつの間にか「皆が私のようになれ」と考える人間になっていたと気付かされた。現場で働く従業員、仕切る幹部ら、掃除をする人、パートのおばさん、そして社長本人などなど。いろんな人が自身と会社のために働いている。業績はおのおのの価値観に沿って上げなければ人と組織は成長しないと強く思うようになった。

またお人好しの社長さんのところへ行ってみた。今度出てきた言葉は「社長さん、人がいいんですね。そこはどんどん伸ばしましょう。われわれはお人好しに合うスタッフをそろえていきますから大丈夫。いい人がやることに間違いはないでしょう。それが会社の価値になればいい」。いつの間にか発想の起点がポジティブになっていた。佐藤さんの笑顔は、一段上のレベルを見る期待感に満ちている。

価値感沿えば企業育つ

従う部下がいたとしても、ただの「イエスマン」。社の将来を任せられるような器が見つかっていない。

顧問や相談役として各社のコンサルタントに当たって、はっきり分

人がとる行動の奥底にある精神性を学ぶうちに「正しいことは一つではない。人は皆別々の価値観を持っているのだ」と開眼した。自

エイチ・エス・コンサルティング 社長 佐藤雅彦さん

～人が生きる奇蹟の組織創造を目指して～
大人だから学びたいことがある